

綾部市上下水道審議会議事要旨

- 1 日 時 令和2年8月5日（水） 午後3時から
- 2 場 所 市役所第1委員会室（本庁舎3階）
- 3 出席者 委 員 上野 司、平野 正明、塩尻 登美子、朝倉 正道、井田 新一、
高橋 秀文、中西 朋子、由良 茂文
市 長 山崎 善也
事 務 局 上下水道部長 四方 秀一、上下水道部次長 柳田 嘉宏、
上水道課長 小林 浩子 ほか7名

4 審 議 会

(1) 開 会

(2) 市長あいさつ

(3) 会長あいさつ

（審議会の成立の報告、審議会の非公開について確認）

(4) 諮 問

「綾部市水道料金及び下水道使用料のあり方について」

山崎市長：

資料「綾部市水道料金及び下水道使用料のあり方について（諮問）」により諮問

(5) 議 題

①上下水道審議会諮問に対する審議予定について

四方部長：

資料「審議会開催スケジュール」を基に説明

（質疑応答）

上野会長：

第2回目の日程については、この場で決めてほしい。

柳田次長：

事務局としては、次回の日程は8月31日（月）の午後1時30分からで提案させていただくが、いかがか。

上野会長：

事務局から次回の日程の提案があったが、異議はないか。

各委員：

異議なし。

柳田次長：

では、次回の日程は8月31日（月）とさせていただくが、会場については会場の空き状況を確認し、後日連絡する。

②上水道事業の現状について

小林課長：

資料「上水道事業の現状」に基づき説明

（質疑応答）

平野副会長：

料金収入は減っていくという説明であったが、決算見込の業務量については総配水量が前年度より増える見込みだが。

小林課長：

総配水量が増えているのは、大口使用である企業の使用量が増えたことが影響している。大口の場合、ある一定量を超えると単価が安くなるため総配水量は増だが、料金収入は減となった。

朝倉委員：

今後、経営悪化が見込まれる要因として簡水統合が影響しているのか。また、簡水を統合した理由はそもそも何だったのか。

小林課長：

簡水統合により減価償却費が増えたことが影響している。減価償却費は将来の更新のための費用となるので、即座に現金がなくなるわけではないが、長期で見込むと不安要素となる。

由良委員：

修繕費が少ないが、何か理由はあるのか。

小林課長：

修繕費については、緊急修繕費用が影響している。元年度は、平成30年度に比べてたまたま緊急修繕が少なかった。

高橋委員：

5年先を見据えると厳しい状況で料金を上げるしかない。広域連携の中で経営統合も考えていかないといけないと思う。

小林課長：

最終的には経営統合となるのかもしれないが、当面の間は、広域連携として資材の共同購入やシステムの統合などすぐに取り組みそうなところから連携していく予定。

平野副会長：

決算見込の営業外収入が収入の1割を占めているが、令和2年度からは額が大きくなる。営業外収入とはいったい何があるのか。

小林課長：

営業外収入としては、一般会計からの補助金となる。

朝倉委員：

コロナウイルスの関係で、全体の給水量に影響はあるか。

小林課長：

個々ではあるのかもしれないが、全体として大きく変化は見られない。

朝倉委員：

社協の業務として、生活資金の融資を行っているが、例年に比べて融資の件数がかなり多い。水道料金に限らず、これから市民の不安要素として出てくる可能性があるので対応をしっかりとってほしい。

小林課長：

コロナウイルス関連としては、支払い猶予を行っている。

高橋委員：

滞納の状況はどうなっているか。金額ベースで教えてほしい。

小林課長：

令和元年度現年分の滞納額の合計は2,995,297円、過年度分の滞納額は閉栓料を含めて26,478,583円となっている。

高橋委員：

その中で時効を言われる人はあるか。

小林課長：

中には時効の援用を言われることもある。

高橋委員：

時効については、知っている人は利用するが知らない人は利用できない。不公平なところ

ろがあると思う。

③下水道事業の現状について

柳田次長：

資料「下水道事業の現状」に基づき説明

(質疑応答)

井田委員：

資本的収支の赤字部分を補填財源で賄うとなっているが、将来どのくらいまで財源はもつのか。

柳田次長：

減価償却費と長期前受金との差額をもって補填財源としている。

井田委員：

このくらいなら大丈夫ということか。

四方部長：

減価償却費など、すぐにお金の出入りのない費用を資本的収支の不足額に充てている。当該年度の赤字部分を埋められるだけの額を一般会計から繰り入れている状況である。

由良委員：

一般会計からの繰入金がないと運営できないということだが、今後も一般会計からの繰入金を見込んで進めていくのか。

四方部長：

一般会計からの繰入が増え続けないよう、料金を見直すなどの対応が必要となる。

由良委員：

数字だけを見れば、使用料を単純に倍にしてもトントンということとなる。大変だ。

四方部長：

公共下水道は、これまでハード整備を進めてきて、その分の償還金もあるので、徐々に使用料を上げていかないといけない。

中西委員：

収支見込に令和3年度からの見込みには雨水事業を含まずとあるが、含んだ場合はどのように変化するのか。

四方部長：

雨水事業については、公費負担となり、一般会計からの負担金で実施し、公営企業で負担するものではないため、使用料には影響しない。

(6) 閉会あいさつ 四方上下水道部長
終了：午後4時30分